

犠牲

ジャータカや前生譚など、お釈迦様の前世の物語を見ると、自らを

犠牲にして他をすくう物語がしばしば見受けられます。

ある時は、虎の子をすくうために自らの身体を差し出す。鬼の時には、老人をすくうために火の中に飛び込んで食べさせようとする。

この犠牲的行為は、捨身ともいい布施の最上のものとされています。仏教では、不殺生戒といい、生命を殺める事は禁止されていますが、仏に供養し他をすくうためであるならば、捨身という布施として許されているのです。

ただ、犠牲の目的を誤ると恐ろしい事にもなりえます。相手ですくうために自らが犠牲になる話はたくさんあります。ところが、教団を守るために犠牲をおおることは経典にはないのです。後者を、教団として行っていたことがあります。「進めば極楽 引けば地獄」と戦場へと送り出した過ちがあります。

守るべきものを度々確認しなければなりません。仏法

は我が身を映し出す鏡なのです。教団

も例外ではありません。

進者生極楽
退者无間地獄

ミニトマトがまた
花をつけている
茗荷草

こんなところに 仏教用語

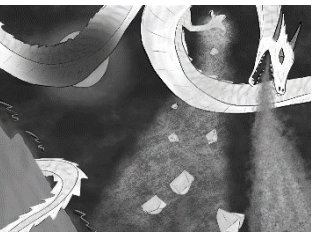
身近な仏教用語を
紹介しています。

奇跡

奇跡…常識では考えられない
神秘的な出来事。超自然的現象

因果を説く仏教において、奇跡はあるのかと問われると奇跡的表現はあると答えます。ただ、死者が生き返ったりするなどの、諸行無常の道理をはずれるようなものではありません。あくまでも悟りへと導く手段の一つとして、神通力を用いるのです。時には変化し人々を導き、時には月の光として病を癒すなど多岐にわたります。

奇跡的表現は、後に創作されたものが多く、お釈迦様以外にも親鸞聖人蓮如上人にも常識では計れない言い伝えが各地に残されています。これらは、民衆の信仰の中で尊敬の念から超人的表現が創作されてきたのです。現実では考えられない話も多いのですが、伝説というのは、真偽を問うよりも、何故このような伝説が誕生したのか、残されてきたのかをたどる方がはるかに大切です。



そして、お釈迦様ご自身は奇跡や神通力を見せびらかすことを否定されました。弟子に頼まれた時に「神変には害がある。それよりも人びとを真実に導く教化こそが奇跡なのだ」と言われました。

